

藤塚地区かわまちづくり協議会 第2回議事録【概要版】

日 時：令和7年2月6日 14:00～

場 所：宮城野区役所 6階ホール

出席委員：宮原会長、平吹委員、平間委員、櫻井委員、秋葉委員、東海林委員、金委員、小畑委員、鈴木陽委員、柳沢委員、鈴木江美子委員

オブザーバー：名取市生活経済部商工観光課課長補佐、仙台市文化観光局観光課主幹、都市整備局市街地整備課東部再生担当課長、若林区海浜エリア活性化企画室長、建設局公園管理課主査

事務局：国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所工務第一課長、公園整備課長

司 会：公園整備課主幹兼建設係長

1. 開会	司会より開会あいさつ
(進行会長)	
宮原会長	会長よりあいさつ
2. 議事	(1) R6年度の活動報告、(2) ワーキンググループでの意見、(3) ワーキンググループでの意見をふまえた整備内容(案)、(4) かわまちづくりの事業展開に向けた整理、(5) 今後の活動予定 鈴木江美子委員、公園整備課小山課長、近藤技師より説明
(質問、意見)	
櫻井委員	・このエリアが道路側から全然見えない点が気になる。大きい道路にきちんとした看板を立てて、アクアイグニスの方にずっと入って通るような形がいいと感じる。 ・閑上のかわまちや水門辺りからは見えるので、道路からもきれいに見えるような工夫をすれば、もっとにぎわいが加わるのではないかな。
平吹委員	・湿地に水路を入れるのは驚いたが、斬新でとても面白い。 ・説明資料3ページにある⑥の吊り橋は、要望として聞いたという意味でここに記載しているという理解でよいかな。 ・⑤の拠点施設については、「にぎわいづくり」と「自然保護」の両立があるべきだと思う。それを分かっていただけよう協議を進めるという理解でよいかな。
小山公園整備課長	・吊り橋は意見としてあったが、井土浦に関しては自然保護がかなり重要な場所。本当に架けていいのか議論を深める必要がある。現段階では、すぐ架けられるものではないと判断している。 ・自然保護とにぎわいについても、両立できると現段階では考えている。
秋葉委員	・貞山運河では、時期や時間によって、シジミガイ、稚ウナギと大きいウナギの漁がある。 ・ウナギの成魚は、通年釣り券を販売している。 ・ボートやサップをやるには、時期や時間で漁が違うので、漁業者とちゃんと

	した打合せが必要である。 ・浚渫は、生態系が変わってウナギもシジミもなくなる懸念がある。 ・ヨシ焼きは、灰を全部回収してもらうのだったらよい。 ・灰がノリ漁や刺し網漁等の網にかかると、かなり悪影響がある。
宮原会長	・漁業というのは自然のものを頂くもの。生態系をしっかりとキープしていかないと、お互いに魅力がなくなってしまうというのは、ここのエリアの一つの留意点と思う。
東海林委員	・船だまりは浚渫して、排水機場からの排水口としての機能と船着き場としての機能を確保してはどうか。 ・浮き栈橋は、管理体制によっては干満や降雨時に流出する等の懸念がある。 ・カニ等の観察は震災前の生物が帰ってきている東谷地で行ってはどうか。 ・側帯周辺に駐車場が多く必要なか疑問。夜間人口がない中、若者のたまり場になってしまわないか。 ・アクアイグニス付近に駐車場を増やして停めてもらった方が、アクアイグニスに立ち寄って帰る等、効果があるのでは。 ・今、人が住んでいないところでは維持管理も人手がかかる。
平間委員	・この地区で商売をしているが、シーズンごとに人出が異なり、一年を通じての経営が非常に難しいと感じる。 ・拠点施設を民間事業者に委ねるのであれば、ある程度人が確保でき一年を通じて商売が見込めるという状況が必要。 ・人気（ひとけ）がない、暗い、といった状況の中、最近、粗大ごみの不法投棄や駐車場内での車上荒らしが問題となっている。防犯カメラや巡回だけでは防ぎ切れない。 ・側帯周辺に駐車場スペースができ、いつでも入れる状況となった場合、防犯対策が気にかかる。 ・人が手を入れるということは、どうしても自然保護から少し外れる部分が絶対的に出てくる。その観点を持って整理する必要がある。
宮原会長	・駐車場については、思わぬ使い方をされてしまう可能性がある。その対策をどう考えていくか。
平間委員	・イベント時は路上駐車が出てくるほどの人出となる。 ・アクアイグニスでも警備員を雇う等の対応をしているが、海岸公園で同様な対応ができるのか、検討が必要。
鈴木江美子委員	・藤塚地区は、震災前からネイチャーゾーンという位置づけではあったものの、利用施設はない状況だった。 ・仙台市としては沿岸部の回遊性、見どころも作っていききたい。ネイチャーゾーンとして、小学生や未就学児の自然環境を学べる、気軽に見に来られる場所というような位置づけの施設。総合学習等、学年単位の来場を想定していることから、大型バスで1学年が来られるというようなことも想定して、東谷地の

	南側に駐車場を配置している。 ・船だまり部分については、泥がたまっているがゆえに水生生物もたくさん見られるような環境に変わったという現状を生かして、自然観察の場所にできるのではないかなというように考えた。新たな停泊場所として貞山運河沿いに新たに護岸を造って、ボートやサップを接岸できるよう考えている。 ・ネイチャーゾーンは大変広いエリアになる。自然観察をするところ、常設は難しいかもしれないがお店を出すところと、海岸公園に来る方が必要なものを作れるだろうと考えている。 ・公園としての作りこみの中で、自然観察ができる場所、花火や貞山運河・海の方を見たいなといったときに避難の丘の上に上って、開けた景色を見られるような、来場の目的になるような場所にしたいという趣旨である。
平吹委員	・個人的にはアクアイグニスの辺りまでが商売をやるエリア、貞山運河よりも海側は原生保全のエリアということで、恐らく行政の方もそのような認識で今回取り組んでいると思っている。 ・その緩衝帯が東谷地になると考えている。今回その利活用を目的として掘削を行い、よりこの場にふさわしい湿地、塩の混じった湿地にしようという点については、私は非常に賢明な企画ではないかと思う。 ・拠点施設はバッファゾーンにある建物なので、商業と自然環境の両方の機能を持つ場所という位置づけがいいのでは。 ・国交省が造った堤防が東谷地を取り巻いている。これは高齢者の方も障がい者の方も自然間近に近づけるバリアフリーな施設として、他にはないインフラが整っていくことになる。これを生かさない手はない。 ・もう一つ、防災上の話になるが、洪水が起きたときに東谷地を放っておけば、遊水地としての役割も果たす効果が期待できる。
櫻井委員	・かわまちづくり事業で自然保護を軸とすると、にぎわいの創出が難しい。 ・課題が多くあると思うが、皆さんで知恵を絞りながら前へ進まないといけない。人を集めない施設づくりのように聞こえる。 ・自然保護の観点を別にすれば、商売している店舗の増加や入れ替えて客足を伸ばさないと事業を継続できない。 ・国も仙台市も予算をつけて、藤塚地区の自然のよさを生かして、皆さんに楽しんでもらおう、作っていこうという話である。今の問題を前向きに解決する方向でやっていただきたい。
宮原会長	・今のうちに起こりうる課題等は共有しておくべきである。 ・にぎわいをどう作っていくか、もっと人が楽しんでもくれるにはどうしたらいいか、どういうデザインにするか、どういう配置にするかご意見いただき、それをまた反映していく。 ・ゴミの投棄といった課題やにぎわいづくりの仕掛けなど、今想定されている話も含めて、維持管理の仕方や仕掛けも考えていく必要がある。

金委員	・今のままではにぎわいが全く出てこない気がする。 ・にぎわいづくりにおいても自然環境においても、捕れた物を売る、体験できるという場を設ける等、子供たちに実際に来てもらって楽しめる空間となるような仕組みづくりが必要。 ・ハード的な整備は国交省でもやる。にぎわいがなければ、このハード整備されたものが未来永劫維持されていくのかが不安である。 ・サップの往来のみでなく、貞山運河を使った連携等、藤塚にある財産を使った展開の仕方を考える必要がある。
宮原会長	・そもそも何でかわまちづくりの整備するのかという原点に立ち返った意見だと思う。一方で、自然の部分についても、見直ししながら最適解を求めていくための色々な議論が必要。
小畑委員	・自転車が多く通るので、拠点施設がにぎわうと貞山運河沿いの道路は狭く感じた。 ・何となく行ってみようという方も相当いるように感じた。そういう方が回遊してもらうことも考えて、お互いにぎわうとよい。
鈴木陽委員	・にぎわいづくりという形では、人を呼び込む方法を考えていく必要がある。 ・跡地利活用事業者と連携して、人を呼び込むことに対して地区として相乗効果を出していく必要がある。 ・季節的なことも考えたイベントの開催について、跡地利活用事業者と調整しながら連携して進めていきたい。
宮原会長	・東部地区の集団移転跡地の利活用事業者の皆さんと、藤塚の皆さんとで連携して進めることをお願いしたい。
柳沢委員	・昨年、貞山運河でゆりあげ丸運航の実証実験を行った。参加者からのアンケートでは、例えばガイドさんに乗ってもらって、自然や環境、歴史といった話も聞けたらよかったという声もあった。 ・自然環境とにぎわいの共存が必要。環境教育的な機能を通して、自然保護や環境の大事さを理解してもらいつつ、食事や買い物をしてもらうという考え方が大事。 ・入場規制や人数制限等、エリア分けするところは出てくる。
櫻井委員	・東部道路の東側は仙台市というイメージがない。本腰を入れないと、沿岸部にはにぎわいはできない。 ・沿岸部は土地が山ほどある。もっと利活用できるのではないかと思う。 ・貞山運河は政宗公が最初作ったものであること等、子供たちに来てもらって伝えなくてはいけない。
宮原会長	・国交省のかわまち整備のプロジェクトをベースに、地域で生かしていくのも忘れてはいけないということで、非常に大切なご意見をいただいた。 ・今日の一番の議論の部分は、自然保護とにぎわいの2つが対立するのではなくて、自然を生かしながらにぎわいをどう作っていくかが非常に重要というこ

	と。いろいろなユニークな事業が入ってくるので、それを十二分に生かして、魅力あるエリアとして、お子さんたちにも学びの場として整えていく必要がある。 ・視認性の問題は、今後整備していくときにサイン計画のようなものを東部一帯にしっかりと紐づけていく必要がある。仙台市全体で回遊性を加味しながら、東部地区全体のサイン計画やデザイン部分をしっかりと計画していくことも大変重要。 ・藤塚でこういった楽しみ方ができるかを見ながら、整備を進めていくとよい。安全で、清潔で、そして自然が守られている、なおかつ人がたくさん来ているという場にしていく努力が重要。 ・メンテナンスを含めた課題への解決方策も、アイデアを出しながら引き続き協議会で検討を進めていければと思う。 ・かわまちづくりの整備の方向や今後の活動予定については、ご了承いただいたということでよいか。
櫻井委員	・イベント企画は、仙台市広報紙をきちっと使った方がよい。効果は高いと思う。もっとPRしてもらいたいので、市の方をお願いしたい。
宮原会長	・広報の方法についてもぜひ強力的に、事業をされている方の応援していただくと大変ありがたい。 ・予定していた議事は以上となる。
宮原会長	・他に意見がなければ、進行を事務局にお返しする。
3. 閉会	・司会より開会あいさつ ・来年度は試行イベント等を実施する予定。